

Document made available under the Patent Cooperation Treaty (PCT)

International application number: PCT/JP2005/024142

International filing date: 28 December 2005 (28.12.2005)

Document type: Certified copy of priority document

Document details: Country/Office: JP
Number: 2005-082230
Filing date: 22 March 2005 (22.03.2005)

Date of receipt at the International Bureau: 13 April 2006 (13.04.2006)

Remark: Priority document submitted or transmitted to the International Bureau in compliance with Rule 17.1(a) or (b)



World Intellectual Property Organization (WIPO) - Geneva, Switzerland
Organisation Mondiale de la Propriété Intellectuelle (OMPI) - Genève, Suisse

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日
Date of Application: 2 0 0 5 年 3 月 2 2 日

出 願 番 号
Application Number: 特 願 2 0 0 5 - 0 8 2 2 3 0

パリ条約による外国への出願
に用いる優先権の主張の基礎
となる出願の国コードと出願
番号
J P 2 0 0 5 - 0 8 2 2 3 0
The country code and number
of your priority application,
to be used for filing abroad
under the Paris Convention, is

出 願 人
Applicant(s): 日本精工株式会社

2 0 0 6 年 3 月 2 9 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

中 嶋



【書類名】	特許願
【整理番号】	05NSP020
【提出日】	平成17年 3月22日
【あて先】	特許庁長官殿
【国際特許分類】	B62D 5/04
【発明者】	
【住所又は居所】	群馬県前橋市総社町一丁目8番1号 NSKステアリングシステムズ株式会社内
【氏名】	水谷 洋斗
【特許出願人】	
【識別番号】	000004204
【氏名又は名称】	日本精工株式会社
【特許出願人】	
【識別番号】	302066629
【氏名又は名称】	NSKステアリングシステムズ株式会社
【代理人】	
【識別番号】	100077919
【弁理士】	
【氏名又は名称】	井上 義雄
【手数料の表示】	
【予納台帳番号】	047050
【納付金額】	16,000円
【提出物件の目録】	
【物件名】	特許請求の範囲 1
【物件名】	明細書 1
【物件名】	図面 1
【物件名】	要約書 1
【包括委任状番号】	9712176
【包括委任状番号】	0301991

【書類名】 特許請求の範囲

【請求項 1】

ステアリングホイールに印加した操舵トルクに対応して、電動モータから補助操舵トルクを発生し、動力伝達機構を介して、操舵機構のラック軸に伝達する別軸式ラックアシスト型の電動パワーステアリング装置において、

前記動力伝達機構は、

前記電動モータにより駆動され、外歯を有する小径の外歯車と、

当該外歯車を内接して噛合する内歯を有し、当該外歯車の軸線を中心に揺動可能に支持され、外周面噛合歯が駆動側プーリとして作用するリング状の内外歯車と、

当該内外歯車により、ベルトを介して駆動される従動側プーリと、

当該従動側プーリにより駆動されて、ラック軸を移動するボールねじ機構と、を備え、

前記外歯車の端部に、略同軸上に、円形支持体が設けてあり、

前記内外歯車の端部に、略同軸上に、前記円形支持体を内接して支持する円環支持体が設けてあり、

前記外歯車の外歯、前記内外歯車の内歯及び外周面噛合歯、前記ベルトの噛合歯、及び前記従動側プーリの外周面噛合歯は、斜歯に設定してあり、

これらの斜歯の捩れ方向は、同一方向になるように設定してあることを特徴とする電動パワーステアリング装置。

【請求項 2】

前記内外歯車の内歯の捩れ角は、 θ_a であり、

前記内外歯車の外周面噛合歯の捩れ角は、 θ_b であり、

前記内外歯車の内歯の噛合いピッチ円半径は、 r_a であり、

前記内外歯車の外周面噛合歯と前記ベルトの噛合歯との噛合いピッチ円半径は、 r_b であり、

【数 4】

$$\frac{r_b}{r_a} = \frac{\tan \theta_b}{\tan \theta_a}$$

に設定してあることを特徴とする請求項 1 に記載の電動パワーステアリング装置。

【書類名】 明細書

【発明の名称】 電動パワーステアリング装置

【技術分野】

【０００１】

本発明は、ボールねじ式で別軸式ラックアシスト型の電動パワーステアリング装置に関する。

【背景技術】

【０００２】

自動車の操舵系では、外部動力源を用いて操舵アシストを行わせる、いわゆるパワーステアリング装置が広く採用されている。従来、パワーステアリング装置用の動力源としては、ペーン方式の油圧ポンプが用いられており、この油圧ポンプをエンジンにより駆動するものが多かった。ところが、この種のパワーステアリング装置は、油圧ポンプを常時駆動することによるエンジンの駆動損失が大きい（最大負荷時において、数馬力～十馬力程度）ため、小排気量の軽自動車等への採用が難しく、比較的大排気量の自動車でも走行燃費が無視できないほど低下することが避けられなかった。

【０００３】

そこで、これらの問題を解決するものとして、電動モータを動力源とする電動パワーステアリング装置（Electric Power Steering、以下EPSと記す）が近年注目されている。EPSには、電動モータの電源に車載バッテリーを用いるために直接的なエンジンの駆動損失が無く、電動モータが操舵アシスト時にのみに起動されるために走行燃費の低下も抑えられる他、電子制御が極めて容易に行える等の特長がある。

【０００４】

一方、乗用車用のステアリングギヤとしては、高剛性かつ軽量であること等から、現在ではラックピニオン式が主流となっている。そして、ラック&ピニオン式ステアリングギヤ用のEPSとしては、ステアリングシャフトやピニオン自体を駆動するべくコラム側部に電動モータを配置したコラムアシスト型等の他、電動式のボールねじ機構によりラック軸を駆動するボールねじ式ラックアシスト型も用いられている。ボールねじ式ラックアシスト型のEPSでは、アシスト力がピニオンとラックとの噛合面に作用しないため、摩耗や変形の要因となる両部材間の接触面圧が比較的小さくなる。

【０００５】

ラックアシスト型EPSでは、ラック軸に形成されたボールねじ軸の雄ねじ溝とボールナットに形成された雌ねじ溝とが多数個の循環ボール（鋼球）を介して係合しており、ラック軸と同軸あるいは別軸に配置された電動モータによってボールナットが回転駆動され、これにより、ラック軸が軸方向に移動する。

【０００６】

また、別軸式ラックアシスト型EPSにおける電動モータとボールナットとの間の動力伝達方法としては、ギヤ式、タイミングベルト式等が一般的である。

【０００７】

次に、本出願前に、図３乃至図５に示すボールねじ式で別軸式ラックアシスト型の電動パワーステアリング装置が提案されている。

【０００８】

なお、図３は、本出願前の提案に係り、ボールねじ式で別軸式ラックアシスト型の電動パワーステアリング装置の縦断面図である。図４は、図３のA-A線（一点鎖線側）に沿った断面図である。図５は、図３のB-B線（二点鎖線側）に沿った断面図である。

【０００９】

本提案においては、図３に示すように、ハウジング１，２，３（ステアリングギヤケース）が設けてあり、ハウジング１には、電動モータ４が装着してある。

【００１０】

この電動モータ４の駆動軸５の凹端部には、枢軸７がスプライン嵌合してある。この枢軸７は、ハウジング１，２に、軸受８，９により回転自在に支持してある。

【0011】

枢軸7には、外歯を有する小径の外歯車11が形成してある。図4に示すように、その外歯車11には、内歯を有するリング状の内外歯車12が噛合してある。この内外歯車12は、外歯車11の軸線を中心に揺動可能に支持され、外周面が駆動側プーリとして作用するように構成してある（即ち、内外歯車12の外周面には、後述するベルト14に噛合する噛合歯が形成してある）。

【0012】

内外歯車12の外周面（駆動側プーリ）の噛合歯と、後述するラック軸21の外方に設けた従動側プーリ13の外周面の噛合歯との間には、内側に噛合歯を有するベルト14が掛け渡してある。

【0013】

一方、ハウジング1, 2, 3（ステアリングギヤケース）には、ラック軸21が軸方向移動自在に収納してあり、ラック軸21には、ボールナット22を備えたボールねじ機構が設けてある。

【0014】

ラック軸21には、雄ねじ溝23が形成してある一方、ボールナット22には、雌ねじ溝24が形成してあり、雄ねじ溝23と雌ねじ溝24との間には、循環ボールたる多数個の鋼球25が介装してある。また、ボールナット22には、鋼球25を循環させるための循環こま（図示せず）が装着してある。

【0015】

ボールナット22は、複列軸受26により支持してあり、その端部の筒状体27に設けたスプライン部28で、従動側プーリ13がボールナット22と共に回転できるように連結してある。

【0016】

さて、本提案では、図3及び図5に示すように、外歯車11の両端部に、略同軸上に、円形支持体31が設けてあり、内外歯車12の両端部に、略同軸上に、円形支持体31を内接して支持する円環支持体32が設けてある。

【0017】

そのため、内外歯車12の外周面（駆動側プーリ）に作用する張力のうちのラジアル力は、円形支持体31と円環支持体32とにより支持することができ、両歯車11, 12は、トルク伝達のみを受け持つことができる。

【0018】

従って、両歯車11, 12には、ラジアル力は、作用せず、内外歯車12が外歯車11に食い込む事がない。よって、歯の耐久強度を向上し、作動音や作動トルクを低減することができる。

【0019】

また、円形支持体31は、その外径が外歯車11のピッチ円直径に略等しく設定してあり、円環支持体32は、その内径が内外歯車12の内歯のピッチ円直径に略等しく設定してある。そのため、円形支持体31と円環支持体32の接触部は、滑りを伴う接触ではなく、転がり接触となるので、摩擦に伴う作動トルクの増加を最小限に抑えることができる。

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0020】

しかしながら、図3乃至図5に示した構造では、内外歯車12（駆動側プーリ）に、フランジが設けられておらず、ベルト14が回転して軸方向に移動した場合には、従動側プーリ13を支持する軸受やハウジング1, 2などに、ベルト14の側面が接触することが起こり得る。

【0021】

このような場合、この接触部の摩擦・磨耗による作動トルクの上昇やベルトの耐久性低

下、滑り接触による異音発生などが問題となるといったことがある。

【 0 0 2 2 】

本発明は、上述したような事情に鑑みてなされたものであって、内外歯車（駆動側プーリ）の軸方向移動を阻止し、作動トルクの上昇や耐久性の低下を抑制すると共に、異音の発生を防止することができる、電動パワーステアリング装置を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【 0 0 2 3 】

上記の目的を達成するため、本発明の請求項 1 に係る電動パワーステアリング装置は、ステアリングホイールに印加した操舵トルクに対応して、電動モータから補助操舵トルクを発生し、動力伝達機構を介して、操舵機構のラック軸に伝達する別軸式ラックアシスト型の電動パワーステアリング装置において、

前記動力伝達機構は、

前記電動モータにより駆動され、外歯を有する小径の外歯車と、

当該外歯車を内接して噛合する内歯を有し、当該外歯車の軸線を中心に揺動可能に支持され、外周面噛合歯が駆動側プーリとして作用するリング状の内外歯車と、

当該内外歯車により、ベルトを介して駆動される従動側プーリと、

当該従動側プーリにより駆動されて、ラック軸を移動するボールねじ機構と、を備え、前記外歯車の端部に、略同軸上に、円形支持体が設けてあり、

前記内外歯車の端部に、略同軸上に、前記円形支持体を内接して支持する円環支持体が設けてあり、

前記外歯車の外歯、前記内外歯車の内歯及び外周面噛合歯、前記ベルトの噛合歯、及び前記従動側プーリの外周面噛合歯は、斜歯に設定してあり、

これらの斜歯の捩れ方向は、同一方向になるように設定してあることを特徴とする。

【 0 0 2 4 】

本発明の請求項 2 に係る電動パワーステアリング装置は、前記内外歯車の内歯の捩れ角は、 θ_a であり、

前記内外歯車の外周面噛合歯の捩れ角は、 θ_b であり、

前記内外歯車の内歯の噛合いピッチ円半径は、 r_a であり、

前記内外歯車の外周面噛合歯と前記ベルトの噛合歯との噛合いピッチ円半径は、 r_b であり、

【数 4】

$$\frac{r_b}{r_a} = \frac{\tan \theta_b}{\tan \theta_a}$$

に設定してあることを特徴とする。

【発明の効果】

【 0 0 2 5 】

本発明によれば、外歯車の外歯、内外歯車の内歯及び外周面噛合歯、ベルトの噛合歯、及び従動側プーリの外周面噛合歯は、斜歯に設定してあり、これらの斜歯の捩れ方向は、同一方向になるように設定してある。

【 0 0 2 6 】

これにより、回転によって、外歯車の外歯と内外歯車の内歯との噛合いから発生する内外歯車を軸方向移動させようとする力と、内外歯車の外周面噛合歯（駆動プーリ）とベルトの噛合歯との噛合いから発生する内外歯車を軸方向移動させようとする力とを、逆向きとなるように設定し、その結果、内外歯車の軸方向移動を規制している。

【 0 0 2 7 】

また、本発明によれば、内外歯車の内歯の捫れ角は、 θ_a であり、内外歯車の外周面噛合歯の捫れ角は、 θ_b であり、内外歯車の内歯の噛合いピッチ円半径は、 r_a であり、内外歯車の外周面噛合歯とベルトの噛合歯との噛合いピッチ円半径は、 r_b であり、

【数 4】

$$\frac{r_b}{r_a} = \frac{\tan \theta_b}{\tan \theta_a}$$

に設定してある。

【0028】

これにより、外歯車の外歯と内外歯車の内歯との噛合いから発生する内外歯車を軸方向移動させようとする力と、内外歯車の外周面噛合歯（駆動プーリ）とベルトの噛合歯との噛合いから発生する内外歯車を軸方向移動させようとする力とを、等しくなるように設定し、その結果、内外歯車の軸方向移動を規制している。

【0029】

従って、内外歯車（駆動側プーリ）の軸方向移動を阻止し、作動トルクの上昇や耐久性の低下を抑制すると共に、異音の発生を防止することができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0030】

以下、本発明の実施の形態に係る電動パワーステアリング装置を図面を参照しつつ説明する。

【0031】

図1は、本発明の実施の形態に係り、ボールねじ式で別軸式ラックアシスト型の電動パワーステアリング装置の縦断面図である。

【0032】

図2（a）は、図1に示した、外歯車と、内外歯車と、ベルトとの噛合い部を拡大して示す模式図であり、（b）は、外歯車の外歯と内外歯車の内歯との噛合いピッチ線（X）を破線で示し、内外歯車の外周面噛合歯とベルトの噛合歯との噛合いピッチ線を実線（Y）で示した模式図である。

【0033】

本実施の形態においては、図1に示すように、ハウジング1，2，3（ステアリングギヤケース）が設けてあり、ハウジング1には、電動モータ4が装着してある。

【0034】

この電動モータ4の駆動軸5の凹端部には、枢軸7がスプライン嵌合してある。この枢軸7は、ハウジング1，2に、軸受8，9により回転自在に支持してある。

【0035】

枢軸7には、外歯を有する小径の外歯車11が形成してある。その外歯車11には、内歯12aを有するリング状の内外歯車12が噛合してある（参考：図4）。この内外歯車12は、外歯車11の軸線を中心に揺動可能に支持され、外周面が駆動側プーリとして作用するように構成してある（即ち、内外歯車12の外周面には、後述するベルト14に噛合する噛合歯が形成してある）。

【0036】

内外歯車12の外周面（駆動側プーリ）の噛合歯12bと、後述するラック軸21の外方に設けた従動側プーリ13の外周面の噛合歯との間には、内側に噛合歯を有するベルト14が掛け渡してある。

【0037】

一方、ハウジング1，2，3（ステアリングギヤケース）には、ラック軸21が軸方向移動自在に収納してあり、ラック軸21には、ボールナット22を備えたボールねじ機構

が設けてある。

【 0 0 3 8 】

ラック軸 2 1 には、雄ねじ溝 2 3 が形成してある一方、ボールナット 2 2 には、雌ねじ溝 2 4 が形成してあり、雄ねじ溝 2 3 と雌ねじ溝 2 4 との間には、循環ボールたる多数個の鋼球 2 5 が介装してある。また、ボールナット 2 2 には、鋼球 2 5 を循環させるための循環こま（図示せず）が装着してある。

【 0 0 3 9 】

ボールナット 2 2 は、複列軸受 2 6 により支持してあり、その端部の筒状体 2 7 に設けたスプライン部 2 8（図 3 参照）で、従動側プーリ 1 3 がボールナット 2 2 と共に回転できるように連結してある。

【 0 0 4 0 】

本実施の形態では、図 1（参考：図 5）に示すように、外歯車 1 1 の両端部に、略同軸上に、円形支持体 3 1 が設けてあり、内外歯車 1 2 の両端部に、略同軸上に、円形支持体 3 1 を内接して支持する円環支持体 3 2 が設けてある。

【 0 0 4 1 】

そのため、内外歯車 1 2 の外周面（駆動側プーリ）に作用する張力のうちのラジアル力は、円形支持体 3 1 と円環支持体 3 2 とにより支持することができ、両歯車 1 1， 1 2 は、トルク伝達のみを受け持つことができる。

【 0 0 4 2 】

従って、両歯車 1 1， 1 2 には、ラジアル力は、作用せず、内外歯車 1 2 が外歯車 1 1 に食い込む事がない。よって、歯の耐久強度を向上し、作動音や作動トルクを低減することができる。

【 0 0 4 3 】

また、円形支持体 3 1 は、その外径が外歯車 1 1 のピッチ円直径に略等しく設定してあり、円環支持体 3 2 は、その内径が内外歯車 1 2 の内歯 1 2 a のピッチ円直径に略等しく設定してある。そのため、円形支持体 3 1 と円環支持体 3 2 の接触部は、滑りを伴う接触ではなく、転がり接触となるので、摩擦に伴う作動トルクの増加を最小限に抑えることができる。

【 0 0 4 4 】

さて、本実施の形態では、図 2（a）（b）に示すように、外歯車 1 1 の外歯、内外歯車 1 2 の内歯 1 2 a 及び外周面噛合歯 1 2 b、ベルト 1 4 の噛合歯、及び従動側プーリ 1 3 の外周面噛合歯は、斜歯に設定してあり、これらの斜歯の捩れ方向は、同一方向になるように設定してある。

【 0 0 4 5 】

図 2（a）に示すように、外歯車 1 1 の外歯と内外歯車 1 2 の内歯 1 2 a との噛合いから、内外歯車 1 2 には、接線力（F a）が発生する。

【 0 0 4 6 】

また、内外歯車 1 2 の外周面噛合歯 1 2 b（駆動プーリ）とベルト 1 4 の噛合歯との噛合いから、内外歯車 1 2 には、接線力（F b）が発生する。

【 0 0 4 7 】

これら接線力（F a， F b）から、斜歯の角度によって、図 2（b）に示すような軸方向への分力が発生し、内外歯車 1 2 の軸線に水平な分力は、内外歯車 1 2 の軸方向移動力となる。

【 0 0 4 8 】

この時、上述した斜歯の捩れ方向が同一方向になるように設定してあれば、外歯車 1 1 の外歯と内外歯車 1 2 の内歯 1 2 a との噛合いにより発生する軸方向移動力と、内外歯車 1 2 の外周面噛合歯 1 2 b（駆動プーリ）とベルト 1 4 の噛合歯との噛合いにより発生する軸方向移動力とは、反対方向（逆向き）に働く。

【 0 0 4 9 】

これにより、回転によって、外歯車 1 1 の外歯と内外歯車 1 2 の内歯 1 2 a との噛合い

から発生する内外歯車 1 2 を軸方向移動させようとする軸方向移動力と、内外歯車 1 2 の外周面噛合歯 1 2 b（駆動プーリ）とベルト 1 4 の噛合歯との噛合いから発生する内外歯車 1 2 を軸方向移動させようとする軸方向移動力とを、互いに逆向きとなるように設定することができ、その結果、内外歯車 1 2 の軸方向移動を規制することができる。

【0050】

また、内外歯車 1 2 の内歯 1 2 a の捩れ角は、 θ_a であり、内外歯車 1 2 の外周面噛合歯 1 2 b（駆動プーリ）の捩れ角は、 θ_b であるとき、上記 2 つの軸方向移動力が互いに反対方向であって、且つ、釣り合うためには、

【数 1】

$$F_a \tan \theta_a = F_b \tan \theta_b \quad (1)$$

となればよい。図 2（a）において、内外歯車 1 2 の内歯 1 2 a の噛合いピッチ円半径は、 r_a であり、内外歯車 1 2 の外周面噛合歯 1 2 b とベルト 1 4 の噛合歯との噛合いピッチ円半径は、 r_b であるとする、接線力（ F_a 、 F_b ）は、夫々、噛合い部に働くトルクから求められ、

【数 2】

$$F_a = \frac{T_a}{r_a} \quad , \quad F_b = \frac{T_b}{r_b}$$

となり、式（1）は、

【数 3】

$$\frac{T_a}{r_a} \tan \theta_a = \frac{T_b}{r_b} \tan \theta_b$$

となる。ここで、内外歯車 1 2 の内歯 1 2 a と、外周面噛合歯（駆動プーリ）とは、当然、一体であり、伝達するトルクは等しいから、

$T_a = T_b$

より、

【数 4】

$$\frac{r_b}{r_a} = \frac{\tan \theta_b}{\tan \theta_a}$$

となる。

【0051】

このため、以上の関係を持つ捩れ角を有する本実施の形態によれば、内外歯車 1 2 の内歯 1 2 a と、外周面噛合歯（駆動プーリ）とに発生する 2 つの軸方向移動力を、相殺することができ、内外歯車 1 2 の軸方向の移動を制限することができる。

【0052】

従って、内外歯車 1 2 の軸方向移動を阻止し、作動トルクの上昇や耐久性の低下を抑制

すると共に、異音の発生を防止することができる。

【 0 0 5 3 】

なお、本発明は、上述した実施の形態に限定されず、種々変形可能である。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 5 4 】

【図 1】 本発明の実施の形態に係り、ボールねじ式で別軸式ラックアシスト型の電動パワーステアリング装置の縦断面図である。

【図 2】 (a) は、図 1 に示した、外歯車と、内外歯車と、ベルトとの噛合い部を拡大して示す模式図であり、(b) は、外歯車の外歯と内外歯車の内歯との噛合いピッチ線(X)を破線で示し、内外歯車の外周面噛合歯とベルトの噛合歯との噛合いピッチ線を実線(Y)で示した模式図である。

【図 3】 本出願前の提案に係り、ボールねじ式で別軸式ラックアシスト型の電動パワーステアリング装置の縦断面図である。

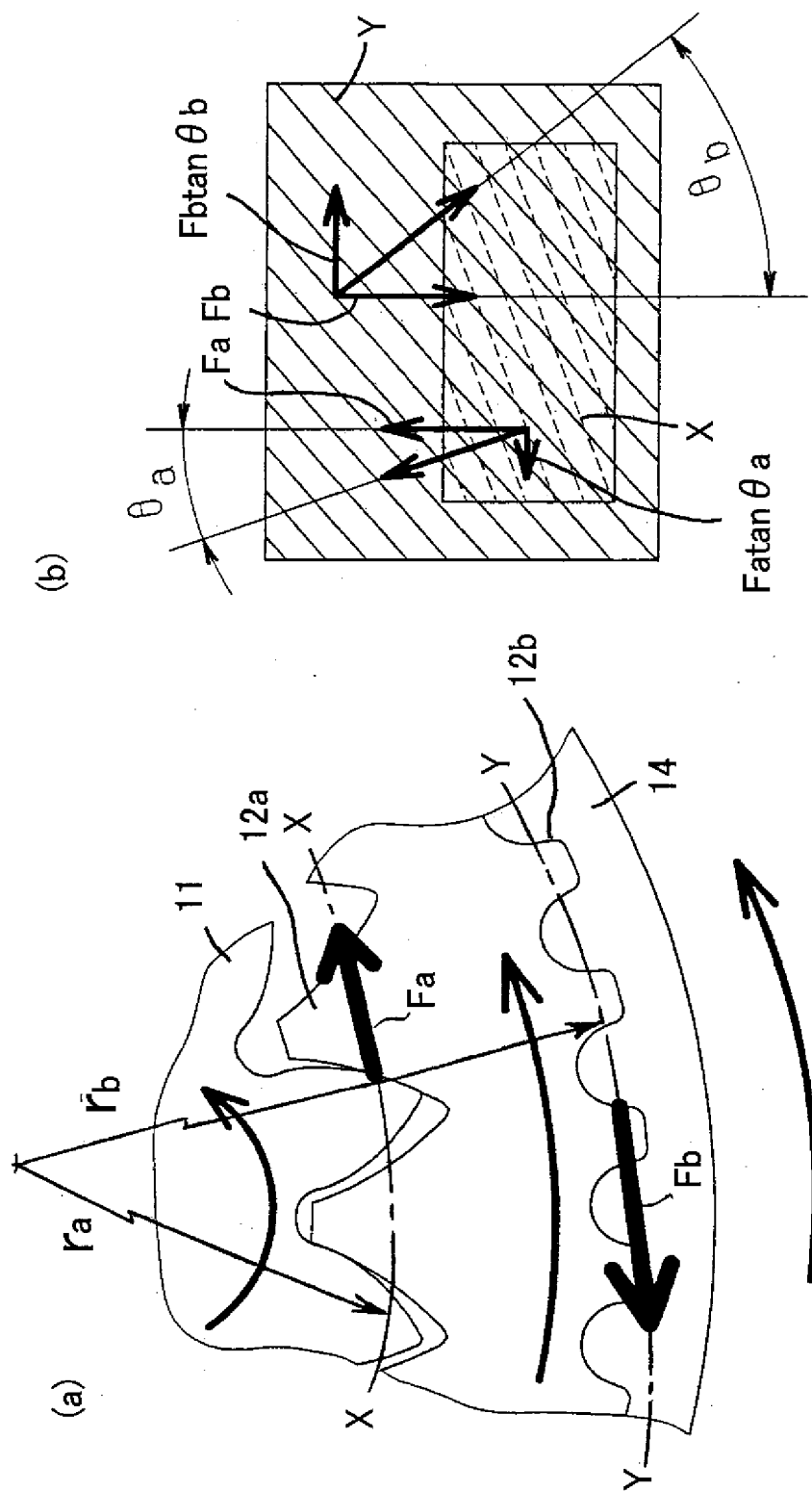
【図 4】 図 3 の A-A 線（一点鎖線側）に沿った断面図である。

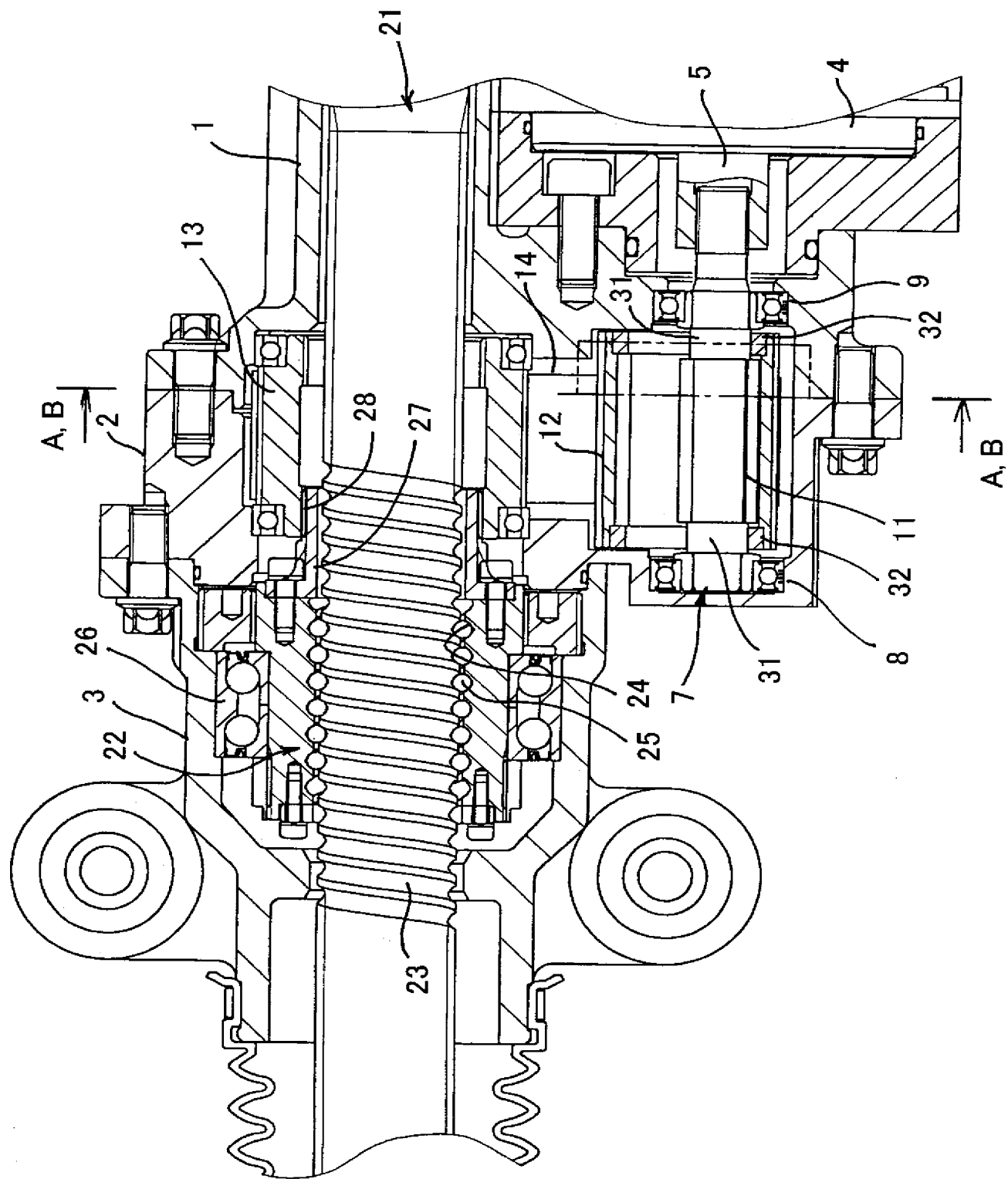
【図 5】 図 3 の B-B 線（二点鎖線側）に沿った断面図である。

【符号の説明】

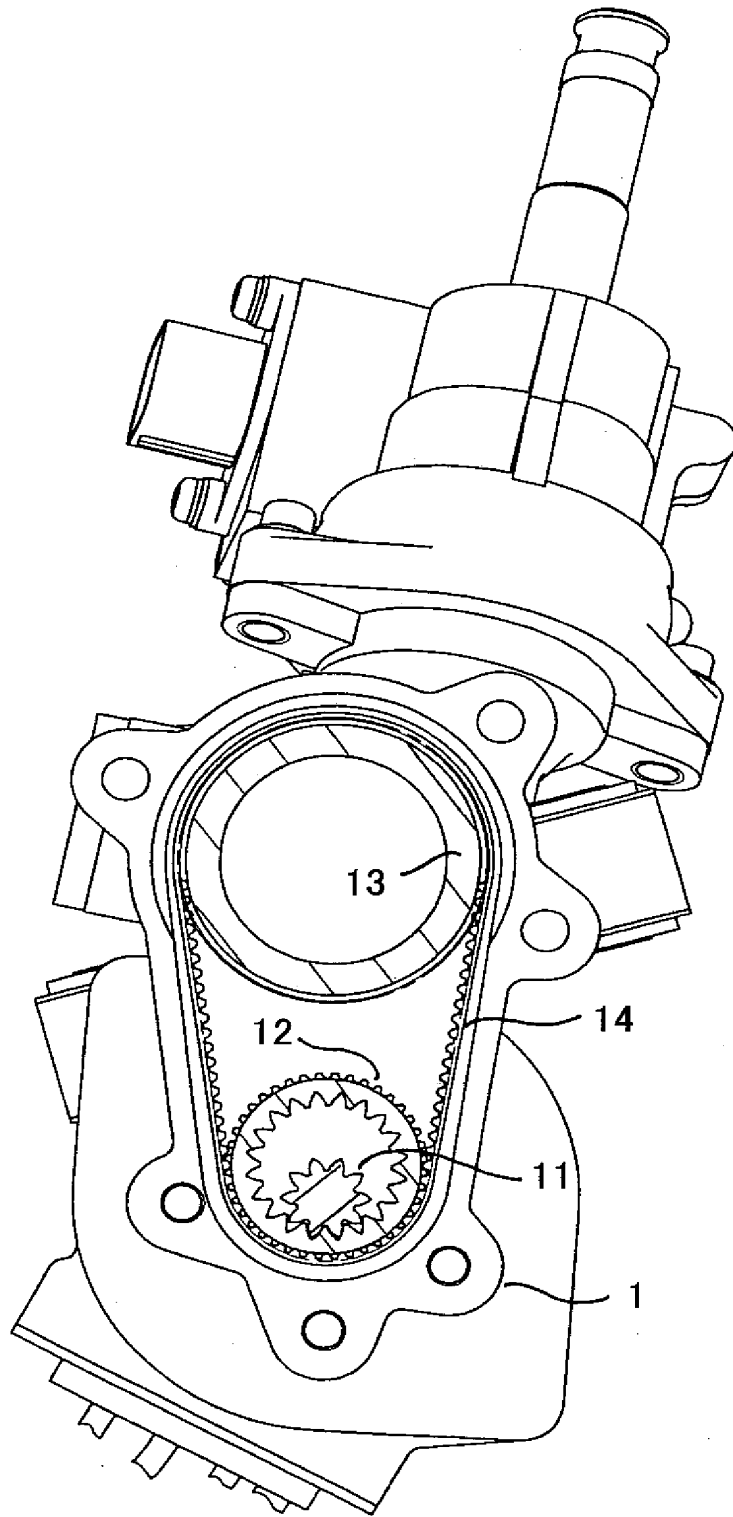
【 0 0 5 5 】

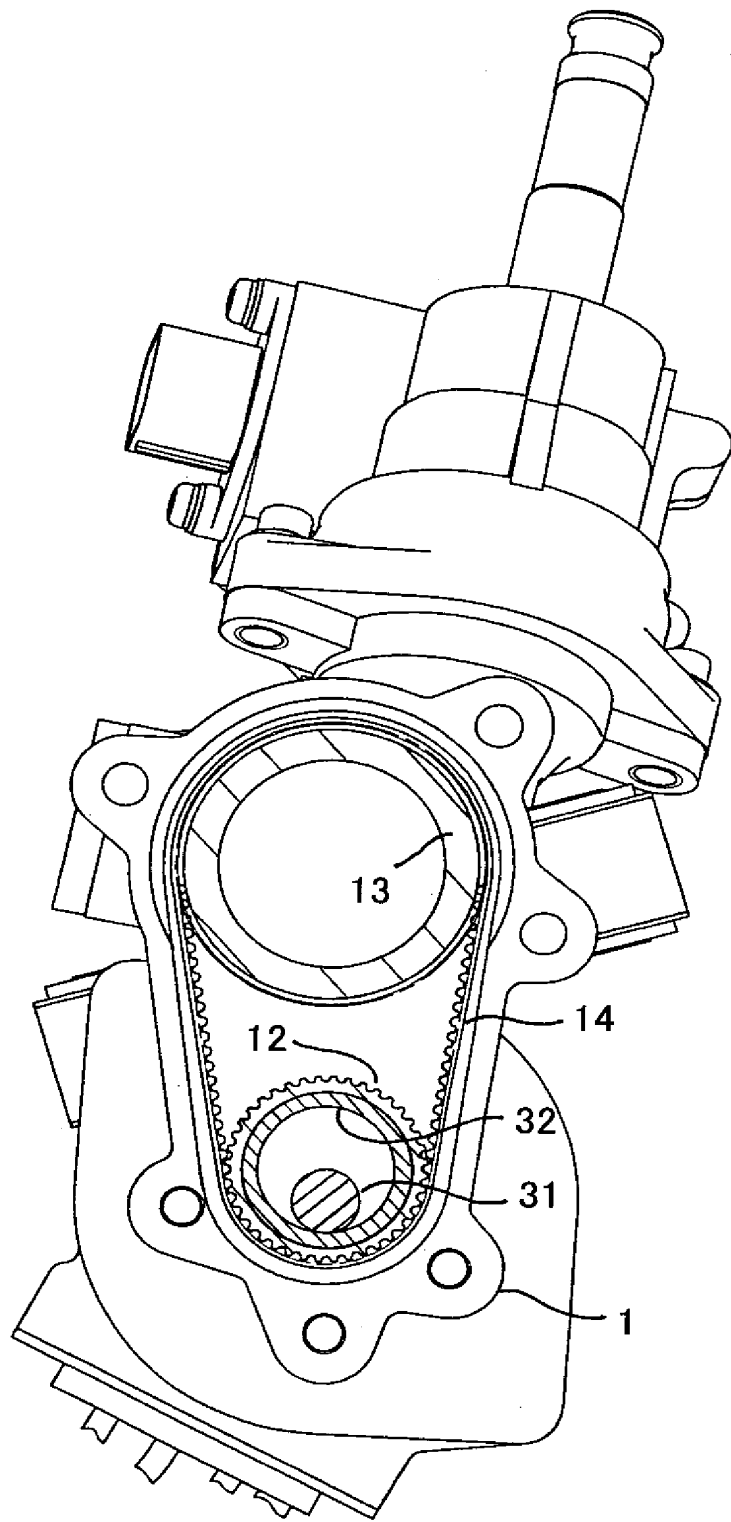
- 1, 2, 3 ハウジング（ステアリングギヤケース）
- 4 電動モータ
- 5 駆動軸
- 7 枢軸
- 8, 9 軸受
- 1 1 小径の外歯車
- 1 2 リング状の内外歯車
- 1 2 a 内歯
- 1 2 b 外周面噛合歯
- 1 3 従動側プーリ
- 1 4 ベルト
- 2 1 ラック軸
- 2 2 ボールナット
- 2 3 雄ねじ溝
- 2 4 雌ねじ溝
- 2 5 鋼球
- 2 6 複列軸受
- 2 7 筒状体
- 2 8 スプライン部
- 3 1 円形支持体
- 3 2 円環支持体





【図 4】





【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 内外歯車の軸方向移動を阻止し、作動トルクの上昇や耐久性の低下を抑制すると共に、異音の発生を防止すること。

【解決手段】 外歯車 1 1 の外歯、内外歯車 1 2 の内歯 1 2 a 及び外周面噛合歯 1 2 b、ベルト 1 4 の噛合歯、及び従動側プーリ 1 3 の外周面噛合歯は、斜歯に設定しており、これらの斜歯の捩れ方向は、同一方向になるように設定してある。これにより、回転によって、外歯車 1 1 の外歯と内外歯車 1 2 の内歯 1 2 a との噛合いから発生する内外歯車 1 2 を軸方向移動させようとする力と、内外歯車 1 2 の外周面噛合歯 1 2 b（駆動プーリ）とベルト 1 4 の噛合歯との噛合いから発生する内外歯車 1 2 を軸方向移動させようとする力とを、逆向きとなるように設定し、その結果、内外歯車 1 2 の軸方向移動を規制している。

【選択図】 図 1

【書類名】	出願人名義変更届
【整理番号】	05NSP020
【提出日】	平成17年 7月11日
【あて先】	特許庁長官殿
【事件の表示】	
【出願番号】	特願2005- 82230
【承継人】	
【識別番号】	000004204
【氏名又は名称】	日本精工株式会社
【代表者】	朝香 聖一
【承継人代理人】	
【識別番号】	100077919
【弁理士】	
【氏名又は名称】	井上 義雄
【譲渡人】	
【識別番号】	302066629
【氏名又は名称】	NSKステアリングシステムズ株式会社
【代表者】	篠原 三知夫
【譲渡人代理人】	
【識別番号】	100077919
【弁理士】	
【氏名又は名称】	井上 義雄
【手数料の表示】	
【予納台帳番号】	047050
【納付金額】	4,200円
【提出物件の目録】	
【物件名】	承継人であることを証明する承継証明書 1
【援用の表示】	平成17年7月11日提出の特願2003-418503の出願人名義変更届に添付のものを援用する。

出願人履歴

0 0 0 0 0 4 2 0 4

19900829

新規登録

東京都品川区大崎 1 丁目 6 番 3 号

日本精工株式会社

3 0 2 0 6 6 6 2 9

20021121

新規登録

東京都品川区大崎 1 丁目 6 番 3 号

N S K ステアリングシステムズ株式会社